附属機関等の名称 会議概要

1	審議会名	第4回交流学習センター施設検討委員会
2	日時	平成18年4月12日 午後7時~9時15分
3	会場	豊科公民館講堂
4	出席者	益子委員長、草深副委員長、丸山委員、細野委員、松尾委員、中田委員、山田委員、藤原委員、 関委員、巻山委員、中嶋委員、細萱委員、細萱委員、小口委員、赤沼委員、曾根原委員、三枝委 員、松田委員、細川委員(まちづくり推進課長)、松枝委員(社会教育課長)
5	市側出席者	望月教育長、小林教育次長、曾根原文化振興係長、財津文化振興係主査、丸山豊科教育課生涯学 習係長、原野穂高教育課生涯学習係長、三澤三郷教育課長、高橋堀金教育課生涯学習係長、竹田 明科教育課長補佐、小穴児童保育課児童係長、小松孝彰三郷総合支所健康福祉課長
6	会議概要作成年月日	平成18年4月18日

1. 会議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ (望月教育長)

(3) 経過説明 (事務局より前回会議内容及び配付資料について説明)

(4) 協議 (視察を振り返っての図書館についての検討)

(5) 閉会

2. 協議

・専門的でない一般的なレベル、普通の人の目線で、どんな施設が必要かというのは全体の相対的な関係の中で考えなくてはいけないのではないかと思います。ひとつの市として合併したからには全市的な展望を持っているいろいろな施設を考えていかななくてはならない。旧町村にこだわっていると無駄が出てしまう。またお金の問題もあるが、必要なものはやはりきちんとお金をかけてそれなりの施設を作っていくべき。その為にはしっかりしたビジョン作りが大切。何年か経って使わなくなったり手狭になって作り直すことになるともた無駄になってしまう。10年、20年くらいは使用に耐える状況が必要で、その為には建設もしょうがない部分がある。全部一度にやろうと思っても無理だが、できるだけ早く欲しい。

・話の中心になっている図書館は松本の中央図書館と分館を参考に考えてみた。市として恥ずかしくないものを要望する。他、美術館・児童館等、こういった施設があるかないかという事はやはり、その地域の市民のレベルや意識が比較的高い根拠となりうるものではないかと思う。旧町村を離れて全市民的な見地でいろんな施設を考えたり作ったりしていく、市としての共通の考え方をきちっと確立したい。

・「ひまわり」に行った時に目にした資料で、「子どもの居場所づくり」は全国的に広がりがあって目にする方も多いと思うのに何故実現されない。このような活動が広がっているのを知って、この地域でも不可能ではないのではないかと思います。

タウン情報記事に「どこかの良い図書館をモデルとして、自分のところに当てはめればよいとは限らない。図書館行政が市民のニーズに合った生きた有機体として機能するものが、求められる」という箇所が印象に残った。

・先日図書館を視察した感想、それから市内の現状、近隣の図書館を見た上での計画という事で考えをまとめてみた。まず松本塩尻地域を見た感想は、「総合施設とすることで諸費用の軽減につながる」という事を実感した。また、穂高、豊科、三郷地区では既に練った計画がある訳だが、必要な要求は満たしてあげなければいけないが、市のレベルで規模・位置・内容を修正していかなければならないと感じた。

今、私たちは図書館について検討を始めたが、統合によって使わなくなった施設、現在ある建物を使えないか、というのを検討中の要素に加えるべきだと思う。

図書館・児童館はJR駅に近いので穂高支所に中央図書館を置く。美術館は豊科近代美術館があるけれども、これを市の美術館と改称して、豊科の案の中には美術館部分を増築してという部分もあった。ここに市全域の文化的なものを集中して求めれば、現在の既存の美術館を使えば費用も軽減されると思う。

市民ホールだが各地区にも小ホールがあるが、やはり市に該当するような大きな施設が必要。一流のものがそこで開催

できるものがなければいけないと思う。それには駐車場の問題があるが、他施設同士で駐車場を共有して、市役所を新しく作るだったら市役所の駐車場をかねて規模を大きくしながら共有できるようにしたらどうだろう。

最後に、先日の視察で良かったことは、実際に我々が目で見て手で触れて、じかに良さ悪さを感じたことは大きな収穫になったと思う。どのような施設を作るにしても利用者の立場に立って、市民の多くが納得できる時を過ごせる施設にしなければいけない。

図書館は「来るだけで何か知的な気分になれる場所」という風に私は感じている。

最後になるが、箱モノの作る費用はもちろん安くしなければならないが、管理の費用というものをいろんなことを考えて軽減するように努めなければいけないと思う。

・各地にある図書館を視察させて頂いたが、実際に読まれてたり貸し出しされている本よりも、しまわれている本が多い所もあったと思う。大切な本もあり、禁帯出の重要な本を見せて頂いた。古文書関係のようなものもあったが、それらは現図書館で管理するのは大変かなとも思う。公文書館のような堅牢な建物の中にあるところにしまったほうがよいと思うものもあった。

・時代によっていろいろ変わってくる事を感じる。例えばIT・映像社会、子供達は楽な映像を好んで活字離れが指摘されている。これからもっと時代は進むと思うが、活字の大事さに目を向けていかれるように、図書館を多目的に使って、それに誘われて人が集まるようにしたい。地域の特色をもった図書館が作られていけばいいと思う。

・やはり勉強する場所が少ない。古文書などは今の建物では管理が難しくなってくると思う。今現在松本市には文書館というのがあって、そこに私も研究の為に何度も行くが、そういう所を専門的に作ってもらって研究の施設も兼ね備えた方がいいと思う。

・いろいろな所を見させて頂いて安曇野市の実際の図書館の状況がよくわかって、とても良かったと思う。これから立派な図書館を造ろうということだが、現状の図書館はどこのところもそれなりに不足している所がいっぱいある。図書館というのは二面的な結果を考えていかなければいけなくて、色々な情報を発信したり集めたりする場所で、地域の中心にある場所ということ。貴重な資料等をしっかり持っている集合図書館的なものを作る必要があるという意見が出ていたと思う。

・中央図書館というのはどの程度の図書館なのか、地域の図書館としてはどの位の規模が必要なのかという点について、松本の図書館の仕組みでは、いわゆる中央図書館と分館の本の貸し借りは民間の業者に委託して運んでいる。安曇野市でもそのような形で迅速に運んでほしい。

・この前、近隣の図書館を見せて頂き大変勉強になった。不十分な施設でも職員の皆さんは真摯に取り組んでいる姿勢を見て感銘を受けた。現状の図書館は、図書の貸し出しが主な仕事だが、図書館内に憩う場所とか、交流の場にはなりにくい施設。いろいろな年代の人が気軽に訪れてくつろげる雰囲気、現状の施設では限界があると思う。また特に、IT、視聴覚関係が大変遅れているのではないかと。今の時代はこの部門が整っていないと若い人達には魅力が無い場所になってしまう。読書をしたり、参考書を見たり、学習できる場所も是非欲しいと思う。

・島内図書館はとても使いやすい図書館。島内の図書館では調べたいものに対してある程度の情報を備えている図書館。それ以上さらに調べたい場合は中央図書館から本を取り寄せることができる。

また子供をそこで楽しむ、いろんな世代の人たちが役立てることができる。

安曇野市の場合、中央館というのは安曇野市に1つあればいいという本を集めるべきではないかと思う。そして分館はそれぞれの地域の人々が楽しんでいくような本を集める。そんな風に考えていくのがいいかなと思う。

・収蔵のしっかりした図書館と、地域に馴染んだ図書館というような形の図書館は必要ではないか。機能的な市全体の図書館、ひとつではなくて、複数の図書館の在り方を考えるうえで、資料4で、空港図書館が貸し出しが多いが、それはどうしてなのか。ヒントになると思うのでおわかりでしたら教えて欲しいと思う。

・島内の図書館など新しい図書館は、本も新しいものが揃っているので、割と利用が多いということがあるのでないか。

・松本と塩尻、基本的には本館があって分館がある構造は同じだが、塩尻は、お母さんと子供が来て使うだけの素朴な機能になっている。表に見えてこない部分を考えて頂きたい。図書館というのは、そこで必要な資料を収集・保管し公衆の利用に寄与するということが、塩尻の分館は童話が中心でお母さんとお子さんの利用が大半ではないかと思う。

中央図書館は逆に童話を毎回借りるという人はほとんどいなくて、専門的なものが多いと思う。貸し出しの冊数だけで判断しえない見方も必要。安曇野市の場合を考えた場合、おそらく分館で吉田分館のような規模でいいと思っておられ

る委員さんはおそらくいないのではないかと思います。すくなくとも今5地域にある図書館以上の規模に充実させる必要があるという意向があると思う。やはり中央図書館は安曇野市にしっかりしたものがあって、議会の議員さんや企業の調査、在日外国人の方、学生さん、旅行者等の利用によって、これからはより高いレベルのサービスを必要とすると思う。大学との連携なども重要。今の図書館では、そのような多様なニーズには応えられない。今ある5つのものを日常的な図書館を充実させながら、市としての一定の機能を確保した施設が必要。

・三郷の図書館は狭くて本が二重に並んでいる状態だけれど、それっておかしくないって家で話しをした。吉田分館の司書の方は人気のある本等、よく考えて労力を惜しまず入れ替えなどをくれている。囑託の司書の方だそうだが、そこで働いている司書の方の図書館を維持していく人の熱心さも、図書館のレベルを上げる大きな要素だと思う。司書の育成のための研修に力を入れて欲しい。

・今日、今までの動向で少しまとめさせて頂いてもいいのかと思う。大体、中央館+分館という方向で考え方がまとまってきたのかなと思う。きちんとした中央館とはどんなものか、多機能、情報化に即したもののなのか、蔵書をメインにしたものなのか。また、分館に求められていた、気持ちが癒される、憩いという部分の付加的なものは後で具体的なお話を頂く必要があるのかもしれない。研究や学習をする場所としての施設の充実、古文書等をちゃんと整理保管する文書館の必要性などについてご意見もある。

図書館について具体的の絵になるような、叩き台になるような案を、事務局の方で作成し、次回にお出しする方向で進めさせて頂ければと思っているがいかか。

・図書館の人数だが、安曇野市規模だと40人位必要な所現在15人という事で、働く人もなかなか手が回らないという事もあると思う。またそれぞれの市町村が図書館に対してどの位のお金をかけていたのか、適切な事業人員配置も、議事を作る時にご配慮頂きたいと思う。

・さきほど三郷の図書館について意見がでたが、三郷の司書さんはたいへん優秀な方でこういう本が必要だというとの本がどこにあるか、みんな頭に入っていてすぐに必要な本を出してくれる。そういうこともぜひご理解いただきたい。

・吉田分館をみていただければわかっていただけたと思う。

・何故図書館は月曜休みが多いか？

・こういった施設は土日に使って頂きたいので、そうすると月曜日休みになるケースが多い。安曇野市では4月から何処かはやっているようになっている。豊科だけは月曜日にやっている。

・中央館と分館を整備するということになると、閉架をどうするかということも考えなければならない。

・掘金はどういう風になるか。この部分の計画が実行できない状態にある。掘金に必要ないということではない。

・今ある文化施設の機能とは別に新しいものを作るのか、今ある施設を使うことができるのか、それを把握していく時期だと思う。各地域の現況確認をして頂きたいと思う。

・分館についてどんなものかというご質問だが、図書館等はこうあって欲しいという事を事務局の方にどんどんぶつけていったらいいのではないかと。些細な事でも、気が付いたことをあげて、それをもとに事務局の方に全国の事例を調べてもらって、またここで再度議論する方向をとったらよろしいのではないかと。それと、特色のある文化施設という事で、公民館、図書館、児童館こういったものがあれば、幅広く利用しやすいような分館にしていけるよう考えていくと、安曇野市としての新しい図書館になってくると思う。

・分館は、例えば不登校の児童が昼間学習する空間にもなるので、学校にはできないサポートをすることができる。蔵書や箱も大事ですが、こういう事も大事になってくるのではないかと。思う。

・やっぱり、人にお金をかけていないと思う。箱モノではなくて、新聞にもあったように、館長さんをどうやって選ぶのか、選択方法がわからない状況だが、その辺に力を入れて頂きたいと思う。あと、分館だが、子供を連れていくとうるさい。本を静かに読みたい人と、絵本の読み聞かせをしたいお母さんとが、同じスペースにいるのはどうかと思う。その点ひまわりは左右にわかれているのでいいと思うが、そういった中身の充実になるべく力を入れていただきたい。

・見直しをすれば空いた施設というのはいくらか出てくるのではないかと。各地区のことについては皆さんご存知だと思う。委員のみならず自分の地区だけでもいいから提案をすればいい。今空いている施設の有効活用を第一に考える姿勢が必要。

・検討されている点で、駐車場が広い所というのがあったが、観光客や年配者の為に駅が公共の交通機関の近くという事も考えていただきたいと思う。

・施設をバリアフリーにするということだけではなく、その施設に携わる人たちの意識を変えることでバリアを解消することができる。現在の図書館の機能面の話で、お年寄りや障害のある人にとってはいろいろ不自由なところがあると思うので、職員の人達にお願いする事が沢山ある。その場合に対応策とか、障害の理解とかそういう部分が必要になってくるが、その場合に中央図書館だけが対応するのではなく、一定の意識とか、技術面とかを全市で備えていったほうがいい。

・図書館の位置についてだが、駅の周辺は土地に余裕がないこともあるので、郊外でも市の循環バスを利用できるようにするなど、あまりこだわらないようにするといい。

・安曇野市の特色としてのひとつの提案だが、車椅子の方は立ち上がって本を取る事ができないのでボタンひとつで書架が下がるという、エレベーター式を採用されたらどうか。豊科の今の図書館は乳母車も書架の間を通れないと聞いた。島内では通路も広くたいへんよい。図書館の閲覧室の中にトイレがありましたが使いやすい。それと多目的トイレの中にポストメイト機能という、人工肛門をつけた人に今後必要なもので、これはあづみ野公園のレストハウスではこの機能をつける事ができた。そんな部分で、できるだけいろんな方が利用できる情報を探して頂いて、事務局の方に伝えて頂けるとありがたい。

いろいろ考えてもらって作るのはいいが、障害をもった人の意見も聞いて作ってもらったがいい。

・次回は24日、視察を予定。次回の視察の後の検討委員会は連休明けの5月10日、穂高で計画したいと思う。